

---

# 想い

永羅

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

想い

### 【Nコード】

N6433C

### 【作者名】

永羅

### 【あらすじ】

蘭に変声機を使ってる所を見られてしまった新一は蘭に全てを話したけど・・・

## プロローグ

全ての謎が解けて犯人がわかった俺は、いつも通り推理を披露した  
勿論、毛利小五郎の声を使って……

事件は、俺の推理であっさり解決した

犯人は警察に出頭し、俺は寝ていたおっちゃんを起こして事務所に  
帰った

何もかも……いつも通りだった……

蘭に正体がばれたこと以外は……

俺は蘭に全てを見られていたことに気づいていなかった……

毛利探偵事務所

おっちゃんは依頼の関係で出かけていて、事務所には俺と蘭しかいなかった

沈黙の中、口を開いたのは蘭だった

「・・・・・・・・新一？」

「何で今まで隠していたの？」

「・・・・・・・・」

昨日の事件で、俺が変声機を使っているのを蘭に見られてしまい、

追い詰められた俺は全てを話してしまった

これ以上蘭に隠し通すこともできないし・・・  
早く話して楽になりたかったから・・・

「蘭・・・・・・・・俺は・・・」

お前を危険な目に遭わせたくなかった  
そう言おうとした

しかし、蘭の声がその言葉をかき消してしまった

「私にくらい話してくれたってよかったじゃない!!」

「・・・・・・・・」

言葉を返すことができなかった

「・・・・・・・・もう、いいわよ」

そう呟くと、蘭は出て行ってしまった

「蘭・・・・・・・・」

再び沈黙が包み込む

俺は・・・蘭に何も言うことができなかった・・・

## プロローグ（後書き）

初シリーズです

もう1つの小説となるべくおなじくらいに更新（できるかな？）しようと思います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6433c/>

---

想い

2010年10月20日19時37分発行